

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	0790100143		
法人名	企業組合飯野の里		
事業所名	グループホーム飯野の里 1		
所在地	福島市飯野町字原田11番地の1		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの運営理念に基づき、日々、利用者様に生き活きと生活していただくために、レクリエーション等の活動や、利用者様とスタッフとのコミュニケーションを深めることに力を入れています。また、地域社会との関わりに重点を置き、地域活動に積極的に参加し、また、地域の方々に、当ホーム行事にも参加していただくべく要請する等して、相互の協調関係の強化を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域自治会に加入し、地域の季節行事を通して交流したり、事業所の行事に運営推進会議委員や消防団員、一般地域住民も参加するなど、事業所が地域との連携、交流の拡大に積極的に取り組み、関係が密接である。
2. 一人ひとりの生活の質の向上を目指した利用者本位の介護計画を作成し、実施記録を基にモニタリングを行い、見直しの根拠も明確にしており、PDCAサイクルが適切にされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が全体ミーティング時に職員に対して事業所理念に基づいた意義の確認をしており、実践につなげている。	理念を掲示し、管理者が全体ミーティングで理念の確認、意義、具体的取り組みを話しており、全職員に周知されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者をはじめとし、職員も、地域の活動に参加し、地域と利用者様との交流の基礎を築くべく、交流を深めている。	地域自治会に加入し、地域の花見、祭礼、クリーン運動、歩行者天国祭りに参加し、事業所の芋煮会や避難訓練などに運営推進会議委員、消防団員、一般地域住民などが参加している。フラダンス、ハワイアン、民話の語り部、器楽演奏などボランティアも受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホーム及び町内会で、相互に行事に招待しあう等し、その中で、認知症に対しての理解が得られるようになっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、各委員に、極力発言していただくことに努めている。そして、それをホーム運営に反映し、サービス向上に努めている。	定期的に開催し、利用者や職員の状況、行事、防災訓練、研修、事故、評価などについて説明し、意見をもらっている。また、芋煮会や避難訓練などの行事にも参加してもらい、結果を話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	立子山飯野地域包括支援センターをはじめとして、市内各地域包括支援センター、居宅支援事業所様と緊密な連絡を取り、協力関係の強化に努めている。	市の長寿福祉課、生活福祉課と関係法規や地域福祉情報などについて相談したり、助言をもらうなど協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員共に、身体拘束をしない介護についての、強い意識を持ち、細やかな見守りを心がけ、身体拘束の防止と、利用者様の事故防止、完全確保に努めている。	管理者、介護支援専門員がミーティングで拘束廃止マニュアルを基にその弊害などを説明し、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。家族とは身体拘束のリスクについて早い段階から話し合い、理解を得ている。日中の施錠は行われていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に、高齢者の虐待防止についての無 [°] 強い意識を持ち、利用者様の尊厳を重視し、日々の介護に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度的な理解等については、事業所としては取り組んでいない。管理者は、成年後見制度への研修受講実績あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等については、主に事務長が担当し、契約内容の説明等については、細心の注意を払い、十分な説明をし、ご家族様からのご理解・ご納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会来所時等に、利用者様の近況報告等の懇談の機会を持ち、ご意見・ご要望をお聞きし、取り入れるべきことについては、スピーディに運営に反映させるよう努めている。	利用者との日頃の会話や家族面会時に、意見や要望を把握するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・要望については、月2回のミーティング時に、ご家族様のご意見ご要望については、上記のとおり、ご来所時にそれらを聞く機会を設け、それらを運営に反映させるよう努めている。	月2回のミーティングで職員の意見、要望を把握したり、管理者が随時個別面談し、職員の意見を聞くようにしている。職員の希望を取り入れ、勤務帯を見直し、随時勤務調整が出来るようにしたり休暇を取得しやすくするよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の支給、定期的な昇給等により、代表者は、就業環境の整備に努めており、それは、職員のやりがいに反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員全てに、外部研修受講の機会を平等に供与している。また、スキルアップについての職員の要望を極力聞き入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県高齢者グループホーム連絡協議会県北方部管理者研修会や、同方部各種研修会に積極的に参加し、他ホームとの情報交換に努め、当ホームのサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入所時実態調査の段階で、ご本人様と目線を合わせ、極力ご本人様のお言葉でご要望をお聞きし、信頼関係の基礎を築き安心して暮らしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入所時のご見学・初回相談～実態調査までの段階で、ご家族様の現況・ご要望をお聞きし、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホーム入所に限らず、その時点でご本人様及びご家族様に最もふさわしいサービスは何かを見極め、地域包括支援センター様や居宅支援事業者様と連携し、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃、洗濯物たたみ、新聞紙折り等の作業やレクリエーション等を利用者様と職員が共に行うことにより、暮らしの共感に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との懇談の機会を設けるだけでなく、極力、気軽に話し合える関係づくりに努めており、ご家族様からの電話での相談・問い合わせが増える等、ご本人様を支援する体制の強化が図られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもとより、ご本人様のご友人・お知り合いの方の面会の促進をお願いしている。また、ご本人様のなじみの場所等にお付けするよう努めている。	理美容は今まで利用していた理美容店が訪問したり、家族の送迎で、希望の店を支援している。また、家族や知人が訪問しやすいよう働きかけるなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の共通の楽しみを見つける、利用者様の共同意識を高める等を目的に、利用者様が孤立することなく日々を過ごしていただけるようレクリエーション活動の時間を増やす等している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退所後も、ご家族様とのお付き合いを絶やさないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護支援専門員、職員共に、ご本人様の思い、ご要望を把握することに努めるべく、細目な見守りを通して、ちょっとした言動からきっかけを発見する等、ご本人本位の介護が実践できるよう努めている。	帰宅願望が強い方には、家族の協力を得て電話で家族と話し合ったり、本人の思いを聞き安定した生活が出来るよう支援している。また、思いを表出できない場合は、行動、表情から、本人本位の支援になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のみでなく、ご本人様やご家族様から、生活歴やなじみの暮らし方等について継続的に聞き取りをするようにし、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、午前のレクリエーション、ご入浴時のご様子お食事の摂取状況、排泄状況、睡眠時の様子、会話内容等から、利用者様の日々の変化について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の要望を細目に聴取し、担当者会議を定期的開催し、現状に合った介護計画づくりに努めている。	介護支援専門員がアセスメントを行い、本人の生活状況や医師の意見、本人・家族の意向を踏まえ介護計画を作成し、1ヶ月の生活状況把握後、その内容を見直している。その後も定期的に見直し、状況変化時は迅速に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様のご様子、介護計画の実践状況等を日々の記録に記入し、毎日の申し送りや定期ミーティング等で職員間で情報を共有し、有効な介護の実践に努め、介護計画の見直しに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のハプニングやアクシデント等にも、柔軟に対応できるよう努め、ご家族様からのご信頼の獲得に努めている。また、ご家族様からの各種のご依頼にも極力お応えするよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会やボランティアグループ等との交流により、豊かな暮らしを実践する機会の増加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に、福島中央病院の担当医師と、ご家族様との連絡、連携を密にし、受診している。ご家族様への細目な報告に努めている。	利用者、家族と話し合い、協力医療機関をかかりつけ医としている。通院付き添いは職員が行い、その情報を電話、面会時に報告している。緊急時の受診もスムーズに出来る体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員が看護資格を有しているため、日常の様子を細目に観察し、意見を求める等している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	365日、24時間体制で、利用者様の安心した治療・早期の退院のための医療機関担当者との緊密な連携体制を維持し、迅速な対応に努め、ご家族様にも安心していただけるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての当ホームの指針を、ご家族様に説明し、ご同意をいただき、契約医療機関との協力により取り組んでいる。	利用契約時に、重度化、終末期のケア指針を利用者や家族と話し合い同意を得ている。重度化した場合は、再度医師や家族、職員が話し合い、方針を検討し看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時には、全ての職員が、冷静・迅速に対応できるよう、日頃より研鑽し、実践に活かし、ご家族様にも、ご安心いただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、全職員が一丸となり、冷静・かつ迅速に利用者様の避難に努めている。また、町内会との連携の維持にも努めている。	年2回夜間を含む火災訓練と初期消火訓練を実施し、消防署の立ち会いと指導を受けている。地域住民も訓練に参加している。通報訓練を随時行っており、風水害等の災害を想定した防災計画を検討中である。乾パンと飲料水は備蓄している。	市の指導があり、火災、風水害、地震などの災害時に安全に避難するための防災計画を検討中であり、すみやかな作成を望むとともに、災害備蓄品の見直しを検討して欲しい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格・尊厳を重視しつつ声かけに努めている。	管理者はプライバシーを損ねない、言葉かけや対応をするようミーティングや各種会議で徹底しており、個人情報も鍵付き書庫で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のご希望を極力お聞きするようにし、また、声かけや、無会話の中で、自己決定の支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも、利用者様のご意向・ペースを優先させていただくよう徹底し、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、利用者様のご意向をお聞きし、身だしなみやおしゃれの支援に努めているが、着すぎの場合があるので、体温調節が困難になることのないよう留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者様に食事を楽しんでいただくための支援として、味や雰囲気はもちろんのことであるが、刻み食、ミキサー食の方にも、見た目のおいしさを提供するための検討を、常に重ねている。	アセスメントや日頃の会話で、一人ひとりの好みを把握し、献立に反映させ、野菜の下準備など一緒に行い、会話をしながら楽しい食事ができるよう支援している。また、季節の行事食や希望の弁当食なども取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の個々の栄養・水分摂取量や摂取方法等について、固定観念をもたず、日々の変化について敏感になり、柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時。就寝前や毎食後の口腔ケアについては、利用者様個々の状況に対応した支援に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、日々の記録に着目し、利用者様個々のサイクルを把握することにより、排泄の失敗を減少させ、トイレで自立に行っていただけるよう努めている。	排せつの失敗をなくすため、一人ひとりの行動や表情から排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様個々の便秘の原因について主治医の意見を参考に、飲食物の工夫をする等し、極力便秘薬を用いないよう予防に努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の、その日の健康状態を把握しつつ、個々のご希望をお聞きし、入浴が楽しみになるような働きかけに努め、支援する。	入浴は週2、3回、午前、午後希望のタイミングでゆっくり、楽しく入浴できるよう支援している。入浴を拒否される方には職員をかえたり、会話で気分転換を図りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のご希望をお聞きしつつも、昼夜逆転になってしまうことの無いように過ごしていただき、夜間良眠していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で、利用者様の内服薬についての情報を共有できるよう提供し合い、その効果、副作用の確認等に注意を払い、主治医に報告・相談する等して、服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の嗜好に合わせて、それぞれが張り合いをもって楽しんでいただけるよう、裁縫、図化工作、塗り絵、合唱、テーブルゲーム等種々の提案・支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を聴取し、花見、季節毎の町内行事、名所旧跡、観光、食事会等に出かけるように努めている。また、利用者様とご家族様の外出についても、柔軟に対応し、支援している。	気候の良い日は希望に沿って散歩や買い物を行い、気分転換やストレスが解消できるよう支援している。花見、歩行者天国祭り等の町内行事に利用者、職員が一緒に参加している。家族との協力でドライブに出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様間で金銭トラブルが起こらないよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様とご家族様の連絡については、それぞれのご希望をお聞きし、支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者様とで、共用空間の装飾の作業等をしており、季節感を感じつつ、過ごしやすく温かみのある空間づくりに努めている。	共用空間には観葉植物や利用者と一緒に作った季節の作品、行事写真が飾られてあり、畳に掘りごたつのスペースでゆっくりくつろぐ事ができる。温度、湿度は快適に調整され、清掃は徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、利用者様それぞれの居場所が暗黙の量感でほぼ決まっており、気の合った同士で思い思いに楽しく過ごされている。その継続のため支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者様の居室については、プライバシー保護を優先に、温度・湿度管理、衛生管理に努め、過ごしやすい空間づくりを支援している。また、家具や調度品についても、ご本人様のご希望をお聞きし、ご家族様との連絡により整備に努めている。	利用者、家族と話し合い馴染みのテレビ、布団、枕、衣装ケース、椅子、クッションなどを持ち込み、その人らしく居心地良く、安心して生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全面を優先に、利用者様の自立度が低下しないように過ごしていただける環境づくりに努めている。		